尾雨唫

都竹雄

青梅の本の間に深しあり山
ときほしくうらいて見めの音
震震はひしたとうろきまれとて
枝はくれるぬち門かつとうて
三日月さ折らく咲あるやせいろう
かゆゆうを開すれ花とり
廿疋ち馬とり ちるふ作かも石
とかうらむれくちそいさつゆる
ちはれるゆつすまれ戸の色り
ゆまうりまりつて雨さへはしつく
小寺鎧れを合てりぬ紙夜せりて
後のはれりにきうれ出役所
九山此為一本まし入りけくれき
ふくねといふて酒と買をふ
若るふたしくね残れ絃のちか定
坂りし乃ちるとのなひを開帳
月花よおひくふつえるみの般
行ようはやう夜ふ作いくろ
条東あろくとはるあて屋乃を
左金度りるお身ぬ米乃色
ちかつことしつても陥まくす猫
てくと睦月りまはれ年ふ
才さりくしてまではまて沖まて
姫といちれぬうちうたのしみ
呉一向気りしたみれおまてか之
又石首乃その志庄ふく
てり色す土用乃月れ赤い市
五十四郎れくちの大本戸
古板矢底えあと入り打かくて
らちとれいたば乃ちすまち
ねの香く葉おちよるところ中をそ
気るいおしのれとうさるふおり
於かみされ仰演仰履乃花盛
川うすち鴻乃まひのくすて
初鯢節色ことかるつけは
けんまうきらみれの文れ 摘草

大老 坤 老 坤 老 坤 老 坤 老 坤 老 坤 老 、 坤 老 坤 老 雄 老 雄 老 雄 老 坤 老 坤 老 坤 老 花